

伊藤環境大臣のチリ訪問

伊藤環境大臣は、2024年8月4日から6日までチリを訪問しました。

5日には、チリのマイサ・ロハス環境大臣と、両国の環境省が政策目標とする3つの環境危機（①気候変動、②生物多様性の損失、③汚染）への対応等について協議し、今後の国際的な取組の加速に向けて活発な意見交換を行いました。

日本とチリは、環境分野では、地球規模での温室効果ガスの排出削減を目的とした二国間クレジット制度（JCM）を2015年5月に締結し、これまでに太陽光発電を中心として15件のプロジェクトが実施される等その関係を強化してきています。再生可能エネルギーの導入拡大は、2050年ネットゼロやSDGsの実現といった世界目標の達成に向け、日本とチリに共通する課題の一つであり、また、生物多様性や汚染も含めて両国でその取組を加速していきます。



ロハス環境大臣との会談

また、同日、伊藤環境大臣は、環境省の脱炭素社会実現のための都市間連携事業を活用して、富山市との連携を進めているチリのサンティアゴ首都圏州レンカ区を訪問し、今後の両国の更なる連携に向けて、クラウディオ・カストロ区長と意見交換を行うとともに、同区のJCM関連施設を視察しました。

レンカ区は国連の気候変動緩和キャンペーン「Race to Zero」への参加をはじめカーボンニュートラルに向け積極的に取り組む都市であり、また、富山市はSDGs未来都市として日本の取組を牽引するモデル都市です。両都市は、2019年に締結した協力協定を契機に、レンカ区が抱える課題に富山市のSDGs未来都市計画の知見及び経験を通じて貢献することを目的として都市間連携事業を進めてきました。この一環として、2024年2月には、JCM資金支援（設備補助）を活用し、同区のプラスチック工場に2.0MW屋根置き太陽光発電システムが導入されています。



カストロ区長との会談



レンカ区の JCM 関連企業の皆様と

さらに、同日午後、伊藤環境大臣は、ユーラスエネルギー社が、JCM 資金支援（設備補助）を活用して設置しているチリのバルパライソ州サンアントニオ市の太陽光発電サイトを視察しました。同社は、クリーンエネルギーの普及・拡大を通じ、地球環境保全の一翼を担うという理念のもと、グローバルで再生可能エネルギー事業を実施する日本企業です。JCM 事業を通じて日本政府が進める、チリを含めた地球規模での温室効果ガスの排出削減に貢献しています。



ユーラスエネルギー社の皆様と



JCM サイト視察の様子

加えて、6日、伊藤環境大臣は、トヨタ・チリ社を訪問し、同社のグリーン水素ステーションを視察しました。同社は、未来のモビリティ社会をリードする、常に時代の一步先のイノベーションを追い求めるというビジョンの下で、チリ初の燃料電池自動車「MIRAI」の市場への投入を開始し、水素技術の普及を推進しています。このグリーン水素ステーションにより、MIRAI は最大能力を発揮することができます。この技術がチリのカーボンニュートラルへのアプローチに貢献することが期待されています。



トヨタ・チリ社関係者の皆さまと



同社の事業説明の様子

その他、伊藤環境大臣は、両国の長い友好の歴史のシンボルの一つであるサンティアゴ市内にある日本庭園を訪問しました。



ポンセ園長による日本庭園の説明



日本庭園の様子

今回の伊藤環境大臣の当国訪問により、環境分野における日チリ間の協力・連携の取組が今後ますます加速することが期待されます。